NPO 法人 第 50 号

# 声安ファンクラブ適信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び 適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。 ~芦安ファンクラブの理念~

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1589-8 大滝要造

TEL 055-288-2531 FAX 055-288-2533 HP http://ashiyasu.com Mail afc3193@nus.ne.jp

### 一我らは阉山の蔓を払うなりー

### H25 南アルプス闸山祭

西洋人は、山には悪魔がいると恐れ、日本人は、山には神様が住むと襲れてきた。西洋では山は「征服する」と言い、日本では「開山する」と言った。そういった意味で、開山祭はフェスティバルでもイベントでもなく、「儀式」だ。いやいや、そんなものなくったって、自分で最大限の注意を払って安全に登ればいいじゃないか…。そう思う気持ちも分からなくもないが、しかし、登山口には山の神があり、頂上にも祠があり、仏様がいて…。そんな日本の山々を登ると、神や仏の存在を意識せずにはいられない。



平成25年6月29日(土)。 組み上げられた蔓払いの柱の 向こうに見えるはずの北岳は 雲の中。神の山という雰囲気 を漂わせている。

太鼓の音が山にこだまし、 儀式は厳かに進む。この山を 開いた偉人の功績をたたえ、 山に命を捧げることとなって しまった方々へ鎮魂の祈りを 捧げる。

いよいよ蔓払いだ。大役を担う大天狗、小天狗は、およ そ100年前に日本近代登山の父ウォルター・ウエストン を北岳へ案内した芦安の登山案内人のいでたちである。

大天狗、小天狗に扮するのは、芦安ファンクラブの面々。 今回の大天狗は全会一致の推薦で決定した石川剛さんだ。 依田さん、堀内さんの小天狗を従えて堂々の登場。 大天狗 が山の神々に開山の祈願を申し述べる。 多くのカメラマン と登山者に囲まれて、少し緊張気味の様子。 さすがの石川 さんでも緊張することがあるのか…。 ふむふむ。 何とも言 えない緊張感の中、「エイッ!」 と斧を振り下ろすと、 東ねられた蔓が見事に切り 開かれる。すかさず小天狗 たちが歩み出て蔓をかき分 ける。こちらは慣れたご様 子。準備が整ったところで 大天狗に導かれ、北岳へ向 かって蔓の下をくぐる。



一すべての方が無事に登山できますように―

毎年同じように繰り返す儀式。滞りなく終わること、それこそが何より大切だ。万が一にも蔓が切れなかったなんてことがあったら…。大天狗の責任がいかに重大かお分かりだろうか。石川さん、お疲れさまでした。さて、来年は誰になるのかしらん。ふふ。

さて!!「儀式」が終われば、こちらも恒例行事☆参加 者は蔓をくぐったその足で、おいしいお蕎麦と桃へ一目 散!私には片づけが残っているのだが、頭の中にはお蕎麦 の映像しか浮かんでこない。「待って~!私の分残しといて くださ~い!!」と大騒ぎで片づけをやっつける。今年は 無事にお蕎麦2杯と桃1個をいただきました。うしし。

腹が減っては山にも登れぬ!です☆



記: 芦安ファンクラブ 中込景子

### 憧れのキタダケソウを愛でに 塚本光子(参加者)

北岳の山頂にかかっていた雲が、みるみる流れていき、 それを待っていたかのように山肌が赤く染まって行く・・・ 6月30日、御池小屋の朝は、前日の雨がうそのように、 紺碧の空がまぶしいばかりの好天で明けました。この景色 が鏡のような御池に映り、この地がかつて麓の村人達が「雨 乞い」に訪れたという伝説の通り、龍神が宿るという幽玄 の世界にしばし時のたつのも忘れて酔いしれました。

6月29日に行われた、北岳開山祭に参加後、手打ち蕎麦や冷たい桃で心づくしのおもてなしを受けた私たち一行は、暖かくきれいで快適な御池小屋に1泊ののち、今日はいよいよお目当ての「きただけそう」を愛でに、総勢12名が3班に分かれて出発します。



岩や木の根が張り出した歩きにくい道を 30 分ほどで、 二俣の出合い。まばゆいばかりの大樺沢の雪渓が目に飛び 込んできて、登攀意欲をかきたてられます。早朝の雪渓は ほどよいゆるみ具合で、アイゼンがサクサクと効いて心地 よく登っていきます。見上げれば空に突き上げるバットレ スが圧倒的な量感で迫ってきて、胸の高揚を押さえられま



せん。とはいいながら、雪渓最上部から 八本歯のコルまでの 丸木ハシゴは恐がりの私には、腰が引け息の上がる「核心部」。 何とか稜線に出るとあちこちに初夏の花が咲き始めていて、テンションが上がってしまいます。 そしていよいよ北岳山荘へのトラバース道へ出ると、たくさんの高山植物にまじって、白い清楚なキタダケソウが私たちを待っていたかのように、満面の笑みで迎えてくれました。氷河期の忘れ物といわれるこのキタダケソウを研究されている名取先生のお話を、昨夜お聞きしたばかりで、観察する目もほんのすこーし専門的になっていています。あたりはキタダケソウだけでなく、一面のお花畑で、ハクサンイチゲ、ヨツバシオガマ、オヤマノエンドウ、チシマアマナ、コメバツガザクラ、アオノツガザクラ、ミヤマオダマキ、キバナシャクナゲなどなど、斜面がそのまま植物



図鑑のような賑わいに、時のたつのも忘れて、 妖精達にレンズを向け心行くまで撮影会となりました。

昨年、単独で肩の小屋泊、山頂経由で、生まれて初めて キタダケソウに巡り会った私でしたが、今年は経験豊かな スタッフの方々と難易度の高い大樺沢雪渓の投降とグレー ドを上げての北岳になり、感動も何倍かになりました。そ して、最後になりましたが、事前の何度にもわたる問い合 わせに快く応えてくださった、芦安山岳館の中込さんはじ めスタッフの方々、小屋までの辛い登りを明るく楽しく盛 り上げてくださった芦安ファンクラブの方々、小屋の夜を 参加者の方達とも楽しく過ごせたこと・・・すべて単独で はとても味わえない、とても大切な思い出になりました。 心から感謝いたします。ありがとうございました。



大樺沢雪渓にて

### 今年もまた会いに来ました 西澤朋美(参加者)

数年前の夏、友人と白峰三山の縦走。

肩の小屋手前の稜線で激しい雨、電、雷にあった。視界が悪かったが、進行方向の先にうっすら梯子が見える。そこを通過するときに雷が落ちたら・・・。危険と判断し、同じ場所にいた登山者達と共に安全な態勢をとり、雷が過ぎるのを待った。しかし、皆、寒さが限界にきていたので、前に進むことにした。小屋までは、僅かな距離だったのだ。なんてことはなかったが、その時のことは決して忘れることができない。お陰様でいろんな意味で安全登山をより意識するようになった。

その頃、初めてキタダケソウのことを知った。前述の出来事がきっかけで話すようになった方から、開山祭・観察会のことを聞き、参加するようになった。今回で何回目だろう・・・。ファンクラブの方々と一緒に登ることは、とても心強い。

広河原に着いた頃には開山祭が始まっていた。受付を済ませ、地元の中学生の合唱、夜叉神太鼓を聴き、蔓払いの 儀式を観て、献花及び安全祈願の蔓くぐりを行った。そして、地元の方が作るかき揚げがのったお蕎麦!!天ぷらも・お蕎麦も最高に美味しい、「もう一杯いいですか?」 とつい言ってしまった。

心もお腹も満たされたので、集合時間まで景色を眺めたり、写真を撮ったりしてくつろいだ。川の音がうるさいくらいに聞こえる。だが、これが心地よい。ここに来ことを実感する。

ファンクラブの方・リピーター参加者との再会、さらに新しい出逢いに期待をもち、広河原山荘前に集合した。各々挨拶し、行程の説明・準備体操をし、登山開始となる。3つの班に分かれ、以降、班ごとの行動となった。私は2班。望月リーダーを先頭に、参加者4名(男性2人・女性2人)、ファンクラブの方1名の6人だ。キタダケソウの観察会は、それなりの準備(体力)が必要である。初めて参加した時に、そう痛感した。今回は、趣味のランニングで足・腰を痛めていたので、体力作りができていなかった。準備不

足のため 不安があった。辛 くても、 楽しもう と心に誓 う。



1日目は広河原山荘から白根御池小屋で、15時着予定。 2日目は白根御池小屋からキタダケソウを観察し広河原に 戻る。最終バスは16時である。ギリギリになるか否か? 「大樺沢の雪渓の急登は、滑落や落石に注意しなければな らない。」を念頭におく。

(山には不思議な力があると思う。不安はどこへいったの やら、登り始めると、久しぶりの登山にワクワクする。)

1日目: 天気は、山に雲がかかっているが、気温は寒くない。歩きやすい気温だ。格好は、上半身は半袖とアームカバー。下は 3/4 パンツとゲイターである。ちょうど良い感じだ。

登りでうっすら汗がでる。振り返ると、急斜面を登ってきたことに気がつく。「なるほど。」納得です。時折吹く風が、さわやかで気持ちが良い。決してバテていませんと自分に言い訳し、涼しさを感じるため、風に向かって足を止めたり、深呼吸したり。沢の音、鳥の鳴き声、また虫の声を聴きながら歩いた。登りで汗を流しつつも、緩やかな時の流れに「山っていいな」と思いながら歩く。

いつものところで咲いているピンク色のお花[クリンソウ!?(花言葉「物覚えの良さ」)]がなかった。うーん、残念だな。シカが食べちゃったのかな?来年は、咲いていてくれるかな?会いたいなー。この場所は、一息つけるところなのに。

イチョウラン・マイヅルソウ・ギン リョウソウ等々、観ることができ、先 ほどの寂しさを忘れ、楽しくなってく る。花に詳しいわけでもないのに、人 より先に目新しい花を見つけると、つ い誇らしげになってしまう。子供みた いだなと思う。

そう、毎々申し訳なく思うのですが、参加する度に花の名前を教えていただくのですが、すぐ忘れてしまいます。 まずは興味を持つことが大事ですが、その後の復習すること、インターネットで調べる・図鑑を観る等があると「もう少し進歩するのでは?」と思っているのでが・・・。

分岐・第一ベンチ・第二ベンチで小休止をしながら歩く。 休憩・歩行のペースも自分に合っていたので、心地よく歩けた。予定時間を少し過ぎたくらいで、今晩の宿、白根御池小屋に着いた。1班の方々にお出迎えしていただきました。だいぶ前に到着していたようです。健脚な方々ばかり、素晴らしいです。雨がパラパラ降り始めた頃、2班はギリギリセーフで大丈夫でした。3班の皆さん、大丈夫かな? 部屋に入り荷物を整理しているところに、3班さんの女性がきました。お話をきくと、やはり、雨にあった様子、濡れものを片付けていました。

しばらくして、夕食前の宴のお声がかかりました。まずは生ビールで乾杯。持参したおつまみを交換しながら、しばし歓談です。その後、参加者、芦安ファンクラブの方等、自己紹介があり、だんだんと賑やかになってきました。ファンクラブの方々のやり取り、参加者の方々のお話がたくさん聞け、とても楽しい時間を過ごせました。

2日目は5:45スタート、2班・3班は一緒に行動しました。大樺沢には雪が多くあり、尾根線はないとの情報。同じタイミング(時期)でも、年により雪の状態が異なるので、実際はどういう状態なのか気になりました。雪渓に出る前にピッケルの使い方、歩き方等のレクチャーをいただき、いざ雪渓へ。水分を含んだ重めの雪。結構、残っていました。また、歩行中も参加者の歩き方を見ていただき、アイゼンの前爪の必要性、軽アイゼンの場合の歩き方などを教えていただきました。今回は、情報通りで、アイゼンは爪10本以上・ピッケルが必須で、活躍しました。

夏道で吹く風とは違い、雪渓での風は冷たく、肌寒く感じたので薄手の上着をはおって歩行しました。しかし上部にいくほど斜度がきつくなり、熱くなってきました。その分風がひんやりして気持ちよく感じました。

水分補給のための休憩中、尻セードで下ってくる度胸ある男性がいました。スピードを緩めることもなく、我が集団の間を通過していったのです。何者なのか、危険な行動だなと感じました。しかし、様子が変だ。どうやらピッケルがない、アイゼンもつけてない。滑り落ちてきたのか?そのようでした。急の出来事で、やっと理解できました。しばらく下ってから、彼は止まりました。ケガはないようでしたが、放心状態にみえました。以降、すれ違う登山者が気になり、他にもアイゼン・ピッケルを装備していない登山者がいることがわかりました。事前に情報確認し、必要装備をもって安全登山を心掛けてほしいと思いました。

幾つもの梯子越え、辟易しているなか、「バットレスがよく見えるよ」と声をかけていただきました。首を右に傾けると、その迫力がスゴイ。ようやく登りきると、ホッとしました。深呼吸です。雲はありましたが、切れ間に観えるダイナミックな景色に何度もシャッターを押しました。小さなお花たち「タカネツメクサ・シャクナゲ・ミヤマミミナグサ・コイワカガミ・ツガザクラ等」が足元を賑わせ

てくれ、疲れが和らぎ、心が弾みました。花や景色一つ一つ感動しながら、歩みを続けると、キタダケソウ群生地に到着。



「いよいよお目にかかれるー!!」私も含め、参加者の皆さん、疲れを忘れたかのような素早い行動で、キタダケソウを探しに動き回っていました。見頃は過ぎていたため、こっちがキレイ、あっちがキレイ、ここはたくさん花がついているなど、皆でワイワイ言いながら観察しました。また他のお花「オヤマノエンドウ・ミヤマオダマキ・ハクサンイチゲ・イワベンケイ等」にも目を奪われ、たくさんの

写真を撮りました。 いろいろな表情を デジカメやスマホ におさめ、それぞ れが納得いくまで 撮り続けているよ うでした。まるで、 撮影大会です。



ようやく満足できたのか水分補給する者が出てきたり、 撮った写真を確認したり、落ち着きをみせてきました。そ して、次の声が、「お腹がすいた。お弁当食べたーい。」 と。山では、誰しもが童心に帰るのでしょうか?確かにお 腹空きましたけどね。

望月リーダーを先頭に荷物をデポした場所までもどり、 ようやくランチ。お弁当を食べ、水分補給をして、ようや く心もお腹も満たされました。すると、また近くに咲く花 に目を奪われ、シャッターを押している方もいました。

気を引き締めて下山開始です。登りとは違う景色に、また感動しながら歩きました。雪渓では望月リーダーのすぐ後ろを歩かせていただきました。歩行リズム・歩幅もよく、勉強になりました。ありがとうございました。

今回の準備不足(忘れ物)は、サングラスでした。晴天ではなかったから良かったものの、非常に目がきつかったです。涙、涙、涙の下山でした。忘れ物、注意ですね。

山は、その年の状況(天候や気候)等により異なる表情を見せてくれます。キタダケソウ観察会に参加することにより、ほぼ同じ時期に登ることができますが、毎回異なります。自分では躊躇する時期に、ファンクラブの皆様のおかげでこのような体験ができ、とても充実・満足感のあるイベント(内容)です。また今後もイベントに参加し、様々な

自然の表情を観察し続けていけ たらと思いました。

いつも暖かく迎え入れていた だき地元の方々やファンクラブ の皆様に感謝の気持ちで一杯で す。参加者の皆様には、どこか の山で、あるいは、またここで 再会することを期待します。



### 第28回国民文化祭を終えて

国民文化祭は、1986(昭和61)年東京都で国民の文化の祭典として第1回が開催され、以後毎年各県持ち回りで毎年秋に開催されてきました。

本年第28回は山梨で「文化の風とあそぶ〜みつめる・こえる・つなげる」のテーマを掲げ、開催以来初めて四季を通じて(平成25年1月12日〜11月10日)開催されることを受けて、南アルプス市では、南アルプスの魅力や文化を全国に向けて発信するために「山岳フェスティバル」を開催することとなり、当クラブが企画から実行まで全面的に協力することとなりました。開催日を平成25年8月3日〜5日とし、目的を達成するために、サブテーマを「知ろう!歩こう!輝く南アルプス」に決定し、充実した中身で実行されました。

#### 南アルプス国立公園指定50周年記念式典

昭和39年6月1日国立公園に指定された、南アルプスの保護と適正利用に関して、中込南アルプス市長、星野環境省自然環境局長の挨拶があり、中村に南アルプス自然

保護官による国立公園の 概要説明、廣瀬和弘南ア ルプス市みどり自然課職 員による「ユネスコ・エ コパーク」登録の経過報 告がされました。





#### 記念講演「山か家族を育ててくれた」

#### *講師 中島誠之助氏*

「開運!なんでも鑑定団」でお馴染みの中島氏が古美術品と山を見る目は実は同じで、いずれも心で感じ、見ることの大切さを語り「山は北岳が一番だ」と南アルプスの素晴らしさを軽妙な語り口で話していただきました。

#### シンポジウム「南アルプスの魅力と文化を語る」

花岡会長の名司会で進められたシンポジウムは、中島 誠之助氏、白簱史朗氏、瀬田信哉氏、星野一昭氏、中込市 長のパネリストの方々の南アルプスに寄せる熱い思いが伝 わり、南アルプスの未来が明るく輝いているようでした。





#### 甲斐犬ぶれあいコーナー

南アルプス芦安地区が原産地といわれる国の天然記念物

の「甲斐犬」は、主人に忠 実で狩猟犬として最も優れ ています。会場には、わり あい人懐こい 4 頭の甲斐 犬がリードに結ばれ、来場 者を迎えていました。



#### 南アルプス・フォトコンテスト

南アルプスのさまざまな姿態やそこに生きる動植物を対象にフォトコンテストが開催され4月1日から5月末日までの期間で104点の応募があり、世界的な山岳写真家白簱史朗氏に審査をしていただき入賞、入選が決定しました。応募された全ての作品は8月3~4日会場の桃源文化ホールに展示され、たくさんの人々がご覧になりました。なお、9月より全ての作品は芦安山岳館に展示します。





#### 仙丈ケ岳登山 栗沢山トレッキング 櫛形山森林ウォッチング

第28回国文祭の多くの行事の中で、山登りができる唯一の行事でした。そのため早くから問い合わせが殺到して、早々締め切らざるを得ない状況でした。また、櫛形山では小学生の登山を受け入れ、子供たちの元気な声が南アルプスの大自然のなかにこだましていました。

この3つの屋外行事の安全、安心に最も心を砕き、当クラブ員の見事なチームワークの下、無事故で行事をこなせたことで、「南アルプス山岳フェスティバル」は大成功を収めたといえるでしょう。会員の皆様御苦労様でした。

### 一山岳フェスティバル スタッフ報告ー

#### 仙丈ケ岳登山スタッフ 渡辺 典美

仙丈ケ岳登山は参加者 59 名、スタッフ合わせて 70 名という大人数だったが、無事にほぼ計画どおりに終了した。かつて経験したことのない多人数を引き連れての 3,033m登頂は、未明からの受付とチャーターバスへの乗車などあわただしく進められ、北沢峠での班編成、準備体操、そして 1 班から順次出発となった。あいにくの曇天霧中で周りの遠景は望めなかった。その分足元に咲く高山植物観察には集中できて、霧に覆われて健気に咲く花たちに元気をもらえた。

小仙丈岳手前の急登で、富士吉田市から参加された方々から突然「輸魔、 (職権、 六根清浄、 お山は近い、 お山に感謝、 感謝、感謝」の念仏が飛び出し、 私も声を合わせて唱えてみると、何となく胸突き八丁の苦しさが和らぎ、煩悩が浄化されていくような体験をした。 そうか、 山岳信仰とはそういうものかと感じ、 信仰の一端を垣間見たような気がした。 富士吉田市から参加された皆さん、 ありがとうございました。 おかげさまで国文祭にふさわしい登山となりました。

ここで9班参加者(渡辺文邦さん)から寄せられたお便りを紹介します。

- ●山岳館で出発前に開催者サイドのあいさつが欲しかった。
- ●北沢峠での準備体操にリーダーの掛け声が欲しかった。
- ●登山計画の中で帰路が明示されていなくて推定できなかった。 ●休憩を 1 時間に 10 分とはっきりした形で欲しかった。
- ●大人数なのにほぼ予定通りの時刻で進行したのはさすがだなあ~と感心しました。
- ●雨に降られたのは初めての体験でしたが、今回のために高値の合羽を新調しそれが役立ったので…喜ぶべきだったのか? ご意見は真摯に受け止めて今後の団体登山に生かしていくことをお誓いいたします。ありがとうございました。

#### 栗沢山トレッキングスタッフ 齋藤 美樹

8月5日(月)5時30分、芦安山岳館。栗沢山トレッキングに38名の参加者と6名のスタッフが集合しました。 長衛小屋(旧駒仙小屋)で、班ごとに自己紹介・準備体操をして7時30分。さあ、出発です。

天気は曇りだが、元気に登り始めました。8時 10分、仙水小屋を通過し樹林帯で休憩をとり、甲斐駒ケ岳がドーンと見える事を願いながら仙水峠へと向かいます。8時 40分到着…。残念ながら雲の中、おまけに小雨も降ってきてカッパを着ることになり、頂上の天気が心配。9時に出発して頂上へ向かう途中、私の担当班の参加者の登山靴が壊れるハプニングがおきましたが、望月さんに応急手当てをしてもらい、無事頂上に11時到着しました。曇り空で絶景を見ることが出来ませんでしたが、雨はやみ、参加者は大喜びで良かったです。ゆっくり昼食をとり、12時に栗沢山を出発し、14時5分長衛小屋に全員無事、下山しました。皆さんが、栗沢山を楽しみ、無事に下山できたことに喜びを感じます。スタッフ初心者の私ですが、今夏の経験を参考に学んでいきたいと思います。

#### 櫛形山森林ウォッチングスタッフ 堀内 訓

私が勤務している南アルプス市立豊小学校では、豊小 PTA ふるさと櫛形山親子登山を行っています。今年度は、国民文化祭山岳フェスティバルに参加することで、安全に、楽しく登山をすることができました。

池の茶屋登山口から、桜峠の急登を登り、櫛形山の特徴でもある原生林に入りました。「新日本の花の百名山」といわれる櫛形山ならではの白や黄色に咲く可憐な花々が私たちを迎えてくれました。一般の参加者は4班、豊小学校は5班の合計9班には、我が「芦安ファンクラブ」や「櫛形山を愛する会」のメンバーが案内人として配置されていました。登山道のポイントでは、花の名前や櫛形山の歴史・文化などについて、実に明快なテンポで話をしていただくことができました。さすが、さすがと感心するばかりでした。

櫛形山の特徴は、深い原生林と多種の花々。歩行中に神秘的な霧が私たち一行を覆い、幻想の世界に誘ってくれ、樹齢300年を超す大木が私たちを温かく見守ってくれるのです。アヤメ平からは、アップダウンを伴うコースに変わりますが、休憩所が各所に設けられ、小鳥のさえずりに耳を傾けながら、会話も弾みました。展望台からは南アルプスの眺望は雲が多く、あいにくでしたが、別の意味で、参加者たちは櫛形山を堪能していました。

かつては東洋一のアヤメの群落がみられた櫛形山です。アヤメ平周辺では大掛かりな鹿柵が廻らされて、花々が食害から守られています。柵の効果もありアヤメの開花数も増え、多くの花々が開花するようになりました。櫛形山は自然体験活動の宝庫ともいえます。学校で、家族で、友達と櫛形山に登ってみてください。

## 参加者の皆様からの感想です☆

アヤメ平、裸山の現状にはがっかりしましたが、早くに回復することを祈ります。花の百名山にふさわしい櫛形山になることを祈らずにはいられません。大変でしょうが、よろしくお願いいたします。(臼井さま)

リーダーの草花や鳥の知識には大変驚かされました。又、班 員を休ませる目的の為に、行程の途中で一旦立ち止まり草花の ご説明をする手段を使う気遣い方に感動さえ覚えました。また、 休憩時間を長く取るとかえって良くない事が初めて理解できた のも今回参加させて頂いた収穫の一つです。

今後は南アルプスの山々や草花にも目を向けてアタックした くなりました。芦安ファンクラブの皆様の楽しそうな活動に触 れた事も収穫です。私としても皆様に混じってお手伝してみた いと感じる程でした。(櫻田さま)

桃源文化会館での中島誠之助先生のご講演や、シンポジウムでの諸先生方の南アルプスの山岳地域の自然保護と環境保全に寄せる情熱に圧倒されました。お話をお聞きしながら「その山に登って来た」という実績のみにこだわる軽薄な自分を恥じ入ったことであります。

案の定、当日は曇天で、南アルプスの山々はガスに覆われて北岳も甲斐駒も鳳凰も拝むことができませんでした。初めて登った者に、南アルプスの女王が「そう簡単に初めから絶景なぞ観せてなるもんですか、観たかったら観えるまで何度でも出直していらっしゃい」と言っている気がしました。下山中の大雨は、山の気象の変化の厳しさを、さりげなく教えようとした初心者への南アルプスからのプレゼントだったと思います。ガスった小仙丈ケ岳で「私には見えています、こちらに北岳と富士山、向こうに鳳凰」と、ガイドされていたその絶景に出会えるまで諦めずに、体力・筋力・気力を鍛え、健康維持に努めます。(福田さま)

Oスタッフの皆さんに靴の修理応急処置をしてもらいありがとう ございました。栗沢山は大変で岩が怖かったが、頂上は気持ちよ かったです。O栗沢山は大変でしたが、頂上に着いた時と下山し た後は達成感がすごくありました。(手塚さま親子) この度はありがとうございました。きちんとお礼も申し上げられず帰ってきてしまったことが心残りでした。足腰の丈夫なうちに甲斐駒や北岳を登りたいと目標にしています。今回はグループの一番前で歩けてとても幸運でした。皆さんにくれぐれもよろしくお伝えください。(中込さま)

あいにくの天候でしたが、リーダーには歩き方、水分補給の仕方、かわいい草花の説明、雨具の着脱のタイミング等々、その都度的確なご指導に安心して進むことができました。途中足がつりそうになり大変ご心配をおかけしましたが、リーダーや班の皆様に支えられ、無事に山行を終えることができました。私達夫婦にとって素晴らしい思い出ができました。(小俣さま)

東京から駆け付けた私は、前日の式典等の催しに終日参加して少々疲れ気味の体調で臨んだ仙丈が岳山行でした。そのようなバテ気味の私を第2班の仲間として、とても親切に、皆さまがフォローしてくださいましたので、皆さまと山頂での記念写真に納まることが出来ました。ですから、殊の外、感謝の気持ちと嬉しさと歓びの思いとが今、改めて私の心身を満たしてくれています。後日、第2班の皆さまとお会いできる機会がありましたら嬉しい限りです。(東さま)

登っているときはつらかったけど、山頂に着いたときはすごく嬉しかったです。今日はよく頑張ったと思います。ありがとうございました。下山して急に雨が降り出してビックリしました。(雨宮さま姉妹)

初めての仙丈ケ岳登山は、あいにくのお天気でしたが、沢山のお花を見て、写真を撮ることができて、満足しています。しかも丁寧に説明してくださいましたので、今度登るときは、家族一緒にと自信がつきました。また、体調を崩した娘へのケア、ストックを置き忘れたことに気づいていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。稜線を歩いた時、晴天での周りの景色と、その中に自分が立っているのを想像しながら歩くのは、とっても気持ちが良かったです。思い切って参加して本当に良かったです。お世話になり、ありがとうございました。(伊原さま)

取材・記:渡辺典美・中込景子

NPO 法人芦安ファンクラブが指定管理を受けている南アルプスの山小屋の「今(なう)」を紹介する「山小屋なう」

第3回目は、日々進化している広河原山 井です!

若き管理人、塩沢 類慈さんにお話をう かがいました!



#### 早速ですが、ここの"売り"は?

やっぱりご飯ですね。ランチは甲州ワインビーフを使った牛丼や自家製ベジカレー、鳥もつ、から揚げなどを出しています。夕食もできるだけ地元の食材を使うようにしています。また、今年は、レトルトの食材を一切使わないようにしたんです。すべてイチから手作りしています。食事に関してはどこの山小屋にも負けていないつもりです。





### *さきほどいただきましたが、本当においしかったです!* 見た目もオシャレだし、街のカフェみたいですね☆

ね、そうでしょ♪ 今年はモーニングも始めたんですよ。 結構好評なんです。僕は、多少手間はかかっても、お客さんにはうまいもんを食べてもらいたい。自分がそうしたい から、しているだけですけどね。ランチでも夕食でも、まずいもの、冷めたものを出したくない、そう思っています。

#### でも、忙しい山小屋でここまでやるのは大変なのでは?

もちろん、僕一人じゃ何にもできません。僕は、サービスは「人」だと思っています。この小屋だって、たくさんの人が助けてくれる。従業員がたくさんのアイディアを出してくれたり、里の人たちが応援してくれたり、一緒に頑張ってくれる人がいるからできるんです。

それに、ここは山小屋だから、まずは登山の基点である 山小屋としての仕事をおろそかにしちゃいけない。そこは 絶対です。だからこそ、いろんな人の助けが必要なんです。

#### これから、どんな小屋を目指していくんですか?

イメージは、森の中のカフェですね。でも、山小屋としての機能はしっかり果たしていかなければならない。そのうえで、里と山とをつなぐ役割を担っていきたいですね。ここまでは車で来られるでしょ。だから、多くの人に気軽に来てもらいたいんですよ。ここが賑わえば、山に登ってみたいなという人も増えるはずで、上の小屋も賑わうし、ここで使う野菜や果物を作ってくれる地元の人たちにとってもいいことだと思うから。

それから僕は、この南アルプスを招いた先人たちや、これまで守ってきてくれた先輩たちの思いをつなげていくことが僕の使命だと思ってるんです。代が変わっても、南アルプスを大切に思うその気持ちは変えちゃいけない。そう思ってます。だから、これからは各山小屋との横のつながりを今以上に大切にしたい。そして、南アルプス市に住む



人たちにも、もっともっとこへ来てもらって、地元の山への思いを深めてもらいたいと思ってるんです。そのために、これからも頑張ります。

#### 最後にひとことお願いします。

登らなくてもきっと楽しんでもらえると思います。また、 夜はキャンドルを灯して幻想的な感じになります。これは 泊まった人だけのお楽しみですね。ぜひお越しください!









決して新しくはないけれど、塩沢さんのアイディアと 熱い思いがいっぱい詰まった、ステキな小屋でした!!

### 山小屋なう ⇒ 叉夕ツヲ紹介

この日は、やる気とパワーにあられる4人のスタッフが働いていました!

#### 内藤裕子さん(山梨県出身)

働き始めたきっかけは、顯慈さんと知り合い だったことです。ここで働く前は登山には興味が なかったけれど、 段々と山の良さを感じ始めて います。北岳や栗沢山、仙丈ケ岳、甲斐駒、 鳳凰三山、八ヶ岳などを登りました!山には ウソがないですね。不自由な

こともあるけれど、それを 克服する能力が出てくる ような気がします。

#### 小野有基さん(山梨県出身)

これまでに北岳には何回か登っていて、広河原山荘に も立ち寄ったことはあったのですが、今年はぜひ、山小 屋の仕事もやってみたいと思い、お世話になることに決 めました。これまでとは反対の立場からということで勉

強になることが多いです。 何よりも、色々な人との 出会いがあることが嬉しい です。ここでの経験を 人牛の糧にしたいです。



#### 可児聖子さん (岐阜県出身)

初めて来たときは、不安でいっぱいでしたが、 今はみんなとの共同生活も楽しめています。

夜、星や月を見るのが好きです。 今年で2年目 なので、自分のやりたいことが分かってくるよう になりました。顯慈さんに、お味噌汁やうどん のダシを顆粒でなく昆布とカツオ節でとった

らどうか、と提案しました。 料理は得意ってほどでは ないけれど、自分が食べ たいものを出したい です!



#### 可児英明さん(岐阜県出身)

自然が大好きで、ネパールやニュージーランドの山を 歩いていました。南アルプスは全く初めてでした。

最初は、顯慈さんが意外に若くてびっくり。仕事を始め てみて、すっごく頭が切れるんで、さらにびっくりです。

あ、おならもかなりしますけど(笑)。 ここは山小屋ではあるけど、

レストランみたいでしょ。みんな で意見を出し合いながらやってる

んですよ。僕は、これからも大自然の中で 生きていきたいですね。

この2人ご夫婦さんです☆

### 野呂川広河原インフォメーションセンターから

2010年に新しくなったインフォメーションセンターで働く五十川 仁 さんに今年の様子について伺いました!

目に見えて感じることは若い人が増えたことですね。感覚としては、4~5割 くらいかなあ。あとテント泊の人が本当に増えました。ソロテントも多いです。 事故は今のところ、例年よりは少なくて良かったですけど、このところ熊の目 撃情報があるので心配しています。

気になることは、最終バスに乗り遅れる人が多い、ということかな。いろいろ な理由はあると思いますが、とにかく予備日を設定していない人が多くて困って います。何とかしてあげたいけれど、そればかりはどうにもなりません。皆さん、 余裕を持った計画を立ててきてくださいね。



### 芦安中学校全校登山レポート

南アルプス市立芦安中学校では、南アルプスの山々を知り、郷土に対して誇りと愛着をもってもらいたいとの願いから、毎年全校登山を行っています。子どもたちは、3年間で、北岳、仙丈ケ岳、鳳凰三山と3つの山を登ります。芦安ファンクラブからは、清水准一さんが指導者として20年以上関わってきており、その他にも毎年数人の会員がサポートスタッフとして参加しています。今年は鳳凰三山。初めて山に登る1年生を先輩たちがしっかりと気遣い、小さな学校の結束を見ることができました。途中ハプニングもありながらも、無事に全員で登頂し、喜びを分かち合うことができました。それでは、子どもたちから寄せられた感想をどうぞ!今回はテーマを決めて写真を撮ったようです。

#### 〇安藤大成(1年)

僕は、3枚の写真を撮りました。「草花」は、大きいキノコを選びました。理由はすごく大きくて見たこともない立派な毒キノコだったからです。「風景」は、鳳凰三山のてっぺんの地蔵岳の写真です。なぜ地蔵岳の写真を選んだのか、理由は地蔵岳は鳳凰三山のてっぺんの中ですごく美しかったからです。「お気に入りの写真」は、僕ひとりの写真で、高い所に登っている写真です。この写真を選んだ理由は、高くて、すごくこわかったからです。

登山を通じて感じたことは、僕はいつもやる前にあきらめちゃうけど、がんばれば最後までやり通せることです。 来年の登山は、最初からあきらめないで登ろうと思いまし

た。初めての登山は、 清水准一さんにとて もお世話になったけ ど、最後まで登れて 良かったです。とて も楽しかったです。



#### 〇田部かれん(1年)

山に、私は登りました。みんなから、熱いような冷たいようなドキドキの視線をあびながら、山の頂上を目指しました。そう、私たちが登ったのは鳳凰山です。道のりが長く、岩がふつうにゴロゴロとあったり、木の根にひっかかりそうな道を登りました。練習の時はザックに重りを入れて、こんなに重いものを背負うのかと思ったけど、本番のザックが軽かったので、ホッと安心しました。最初は本当に最後まで登れるか心配だったけど、最後のところは道が下りだったのでよかったです。そして頂上に登った時、このつらい空気から逃げられたと開放感が感じられてうれしかったです。途中で一輪のピンクの花や富士山などいろんな写真を撮りました。みんなで休けいの時に、たくさんお話をしたり植物がたくさん咲いていて、心が落ち着いてきた気がしました。やってみればけっこうできるんだな、と思いました。来年も、がんばって来たいなと思いました。

#### 〇大森諒人(1年)

僕はテーマに沿って写真を撮りました。「風景」は鳳凰三山に行く途中の道から見えた富士山と盆地が一緒に写っている写真です。なぜこれにしたかというと、盆地と世界遺産に登録された富士山がきれいで、「こんなに高い所に来たんだなぁ」と思ったからです。「お気に入りの写真」は、地蔵岳を撮った写真です。理由は、僕たちの登ったコースで、地蔵岳は最後の方で、「よくここまで来れたなぁ」と思っていて、また「すごい山だなぁ」と思って撮ったからです。僕は1日目の夕ご飯の時に高山病になってしまいました。でも、2日目になったら元気になって登ることができたというのも気に入った理由かなと思いました。

僕はこの登山を通じて、山に登った時の達成感を感じることができました。また、絆が見えたような気がしました。 また、助け合うことも大切だなぁと思いました。

#### 〇深澤維阿(1年)

僕は「草花」、「自分のお気に入りの写真」、「風景」の写真を撮りました。「草花」は、「イチリンソウ」という花を撮りました。なぜこの花を選んだかというと、急な坂が多く疲れていた自分に、この花の力強く育っている姿見て元気がわいてきたからです。「お気に入りの写真」では、ご来光の写真を選びました。なぜご来光の写真を選んだかというと、理由は二つあります。一つ目は登山に行くとき、ご来光を見るのをずっと楽しみにしていたからです。二つ目は登るのに疲れていた僕に元気がわいてきたからです。「風景」では富士山の写真を選びました。なぜこの写真を選んだかというと、今まで見てきた富士山は一部しか見ることができなく、こんなに大きく富士山を見たのは初めてだったので心に残ったからです。

登山では、他の町にはない草花や動物などの自然があり、 すばらしいと思いました。また、山の珍しい植物、生物の たくましい姿を見て、すごいと思いました。風景はきれい なものばかりで、とても驚きました。これからも山にゴミ を捨てないようにして、山を大切にしたいと思いました。

#### 〇林優花(1年)

私は3枚の写真を選びました。1枚目は「草花」です。この花はユウレイ草という花です。この花は下に動物の死体があるそうです。とても面白い花だと思いました。2枚目は「風景」です。これは薬師岳からのご来光です。4時に起きるのはとっても大変だったけど、下から見るのと山で見るのではとても違うと改めて実感しました。そして、ご来光と富士山がとてもきれいでびっくりしました。3枚目は「お気に入りの写真」です。これは、私、ミアちゃん、星音さん、かれんさんと撮った写真です。初めは遊び感覚でやっていたけど、ちょっと気を入れてやったらみんな個性が出ていてかわいいと思いました。これからも、もっとたくさんいい思い出になる写真を撮っていきたいです。

私は登山を通して、やればできるということを改めて学びました。登るときはとっても不安で、大丈夫かなぁ、行けるかななど、とっても心配だったけど、無事何事もなく行けてよかったです。そして、友達などと協力したり励ましあったりして、とても面白い登山ができてうれしかったです。来年も北岳があるけど、今年のことを生かしてがんばりたいと思いました。

#### 〇森本星音(1年9

私たちは今年、鳳凰三山に登りました。そのために早朝 トレーニングを行いました。最初のうちはとてもつらいと 感じていました。でも、何度もやっていくうちに、友達と しゃべる余裕も出てきました。しっかり登れるのかなぁ、 と心配な気持ちもありました。でも、すごく楽しみでした。

ご来光の写真は、自分で撮りながらすごく感動しました。 雲の間からキラキラと太陽の光がもれていてきれいでした。 私のお気に入りの写真は、ミア、優花、かれん、私で撮っ た写真です。薬師岳で大さわぎしながら撮りました。なん だかみんなでプリクラを撮っているような気分になりまし た。時間がとても速く過ぎました。

登山で感じたことは、友達がいてくれてよかったということです。友達がいてくれたからがんばれたし、楽しく登れたんだと思います。全然楽じゃなかったけど、小屋に着いた後みんなで楽しくおしゃべりしたり夜景を見に行った

り、そんな良い思い出が作れたのも、 友達がいたからです。楽しくて良い 思い出ができてす ごく良かったです。 来年の登山が楽し みになりました。



#### 〇豊島由華(1年)

私は、テーマに沿って写真を撮りました。一つ目は「草花」で、ギンリョウソウという花を撮りました。この花を撮った理由は、この花だけは絶対見て帰ろうと思っていた花だったからです。その時の気持ちは、予想では2日目に見つかるだろうと思っていたので、こんなに早く見つかるなんてとっても嬉しかったです。二つ目は「風景」で、砂払岳から見た景色を撮りました。この写真は1日目の時に撮って、この時はもう動けないかもと思っていた時に見て、がんばって登って良かったと元気が出てきました。三つ目は「お気に入りの写真」で朝早く見に行った日の出を撮りました。朝早く起きたのでちょっと眠かったけど、見ることができてとっても嬉しかったです。

登山を通じて、私はやればできるとわかりました。登る 前は、「登れるかな、だいじょうぶかな。」ととっても不安 な気持ちでいっぱいでしたが、友達とみんなでがんばって 山頂に登り、みんなの思いを書いた旗をかかげることがで きてとってもよかったです。まだ、2年生になってもあり ますが、今よりも体力をつけていって、次の時にも自信を もってまた登れるようにがんばっていきたいと思いました。

#### 〇倉園光太郎(1年)

まず1枚目は「草花」です。草花の名前はわかりませんでした。この花は、鳳凰三山を象徴する花でとても貴重な花だそうです。また、この時期この花はとても珍しいので、一輪だけ咲いていてとてもラッキーでした。2枚目は「風景」で、地蔵岳のオベリスクです。僕はこのオベリスクが一番見たかったので、とても印象に残っています。地蔵岳の道のりが一番きつかったです。でも、オベリスクからの甲府盆地の風景はとてもよく、オベリスク自体もとてもかっこよかったです。岩の間にも先輩たちが作ったお地蔵さんがあり、その他にもいろいろお地蔵さんがたくさんあり、今度オベリスクに来たときは、オベリスクにも登ってみたいです。「お気に入りの写真」は、砂払岳でお母さんと一緒に撮った写真です。今まで開けていなかった景色が一斉に開けて、とても開放感があり、しかも白根三山が見え、富

士山が見え、甲府盆地が一望でき、そこからお母さんと撮った写真がお気に入りの写真です。

今回、友達との友情が一層深まり、何事もあきらめないですれば必ずできるという自信をもち、登山という楽しさも一緒に学びました。本当に自分の思い出になりました。



#### 〇森本恭兵(2年)

「草花」の写真は、タカネビランジです。地蔵岳と観音 岳の途中で撮りました。この写真はすごくきれいで薄いピンク色ですごく印象に残っています。「風景」の写真は、観音岳近くで撮った写真です。朝の光と岩がマッチしてきれいで神秘的でした。支援者の斎藤秀樹さんも、山は神様がいる場所だと言っていたけど、本当に神様がいるような様子を写すことができました。山に登ってここまできれいに撮れた写真は無かったくらいいい写真かな、と思いました。「お気に入りの写真」は、いつも学校でも仲良しな三人組を写した写真です。僕はこの写真が大好きです。この写真は、薬師小屋の前の近くの岩場で観音岳を指さして笑顔で撮りました。この写真は、今年一年の中で一番ぐらいお気に入りになりました。

最後に鳳凰三山に登った感じたことです。昨年登った仙 丈ケ岳では、登るのに全力だったけど、今年はちょっと余 裕もありなので自然を感じながら登ることができました。 思い出は、小屋でみんなで行った散歩です。薬師岳の前ま で行って見た夜景と甲府盆地の風景は、美しく忘れること ができません。だから良い思い出になったのかなと思いま す。来年は北岳なので、もっと山のこと、自然のことを見 ながら感じながら登りたいです。

#### 〇金丸ミア (2年)

私のお気に入りは薬師岳で星音と優花とかれんと私で撮った写真です。笑いながら撮ったので、笑顔がたえませんでした。あと、2日目の日の出の写真は感動しました。写真に収めたらわかりませんが、富士山が赤く染まった時は本当に美しくきれいで最高でした。

登山で登っている途中も、友達としゃべったりして本当に楽しかったです。きつい急斜面に弱音を吐きながらも、乗り越えることができました。小屋に着いたときは、とてもうれしくて泣きそうになりました。夜ごはんは、本当においしく感じました。でも、その夜熱が出てしまい、夜の星を見ることができませんでしたが、次の日が楽しみでなかなか眠れませんでした。二日目は日の出が見れたり、観音岳の頂上から見た景色が最高で、疲れがふっとびました。地蔵岳に行くときも、足が動かなくなりそうでしたが、景色を見て疲れがふっとんでしましました。

今年の登山を通じて、学んだことは二つあります。一つ 目は自然の大切さを学びました。木も花も生きているんだ な、と実感しました。二つ目は何事もあきらめず全力で行 けば、いい事が待っていることです。疲れながらも登った ため、きれいな日の出を見ることができました。

今回登ったことは、最高の思い出です。



#### 〇松本岳志(3年)

僕は今年、中学校最後の登山で鳳凰三山に登ってきました。今年は1年生が多くて、まとめて引っ張っていけるのかが一番の悩みでした。しかし、行ってみたら1年生の方が元気でとても驚きました。

今回の登山での、特にお気に入りの写真を紹介します。 まず、「草花」の写真はコイワカガミの写真です。この写真 は、薬師岳小屋の手前で撮った写真です。一日歩き通しで 疲れ切っていてこの花を見たときは、とても元気をもらい ました。岩陰にひっそりときれいに咲いていて、とても感 動しました。次に「風景」の写真です。これは2日目の早 朝、薬師岳を越えて一つ向こうの観音岳の手前から振り返 って撮った写真です。薬師岳と世界遺産の富士山とのツー ショットでとても好きな写真です。自分たちがいつもポス ターや写真で見るような景色で、自分の目でそれを生で見 れたことに感動しました。最後に「お気に入りの写真」で す。どこで撮ったかよく覚えていませんが「ここからきれ

いに見えるよ」と支援者の 花輪さんに言われて撮った 写真です。奥に見える富士 山がとてもきれいで空の様 子もすごく気に入ってます。



